資料３－２－１

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第３０回）
Ｒ４．３．１７

高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画のメンテナンス等について

国立文化財機構古墳壁画ＰＴ修復班（絵画担当）

○概要

令和元年度に修理を終えた国宝高松塚古墳壁画について、定期的な壁画の状態確認と、国宝修理装潢師連盟が実施する集中メンテナンスの状況確認を行った。また、別置保管されている天井目地部分の金箔がある壁画片について、今後の展示活用のため、石材へ一体化する方法の検討を継続した。

国宝キトラ古墳壁画に関しては、国宝修理装潢師連盟による定期点検や集中メンテナンスの状況確認を行った。また、壁画取り外しから再構成に至るまでのデータを整理し、『国宝キトラ古墳壁画保存修理報告書』刊行に向けて編集を行った。

○高松塚古墳壁画

１）壁画の状態確認

修理時に材料を加えた部分や、紫外線照射、酵素処置などクリーニングを施した部分を中心に、令和３年度は４回（５月、８月、１１月、３月）、修理後の定期的な状態確認を行った。目視観察とともに非接触型測色計での測定も行い、色味は大きな変化がないことを確認した。

２）集中メンテナンス作業の状況確認および打ち合わせ

令和３年度は４回（６月、８月、１０月、１月）、修理技術者と修理後の壁面の状態や問題点の共有、解決に向けた検討を行った。第２９回検討会で報告した石材表面の剝落について、石材担当と取り扱いを協議し、観察を継続することとした。

３）壁画の修理作業に関する各種データ整理と報告書準備

報告書の刊行に向けて、令和３年度は修理作業関連の画像・動画資料の整理を行った。

〇キトラ古墳壁画

１）壁画の集中メンテナンス

国宝キトラ古墳壁画公開実施後（６月、８月、１１月、３月）の壁画集中メンテナンスの状況確認を行った。

２）「午」の保管状況に関する調査

平成１７年に泥に転写されて発見された南壁十二支午像は、当時の緊急的な状況から、委員会の了承を得たうえで、暫定的な措置として安定に保管できるよう調整し、そのまま脱酸素封入、適宜加湿するなどのメンテナンスを継続している（資料４参照）。脱酸素剤に関して、近年製造された製品において酸性物質を放出するとの報告もあり、現在の暫定的な保存方法について検討を要する状況である。

令和３年度は現状確認のため、空気質調査（有機酸）およびATP検査（生物学的な汚染状態を判断することができる調査法）を行った。結果、封入に使った袋の内部の水から有機酸が確認された。一方、ATP活性は低く、硫化水素や硫化カルボニルといった嫌気性発酵で生じる物質も検出されなかった。

３）国宝キトラ古墳壁画修理報告書

キトラ古墳石室発掘調査後の壁画取り外しから壁面の再構成まで、壁画修理について報告書にまとめた（資料４参照）。

４）修理報告書関連資料のアーカイブ化

修理報告書の編集作業に伴って整理された、取り外した壁画片の各種処置カルテについて、デジタル化を行った。